

トラフグ人工種苗の放流効果について

研究部

背景、目的

東シナ海から玄界灘海域で漁獲されるトラフグは、過去1,000トン以上あった漁獲量が現在1/10にまで落ちこんでいます。

そこで東シナ海系群のトラフグ産卵場に位置する福岡湾、有明海、八代海、瀬戸内海西部、瀬戸内海中央部の5海域にトラフグ稚魚を放流して、山口県、福岡県、佐賀県、長崎県の4県により追跡調査を行い、各放流群の放流効果を解析しました。

成果の概要

(1) 各産卵場での標識放流

全長75mmの尾鰭が正常な健全種苗に胸鰭切除標識と耳石標識を施し、東シナ海の資源の補給源である有明海、八代海、福岡湾、瀬戸内海西部、瀬戸内海中央部において同時期に放流を行いました。



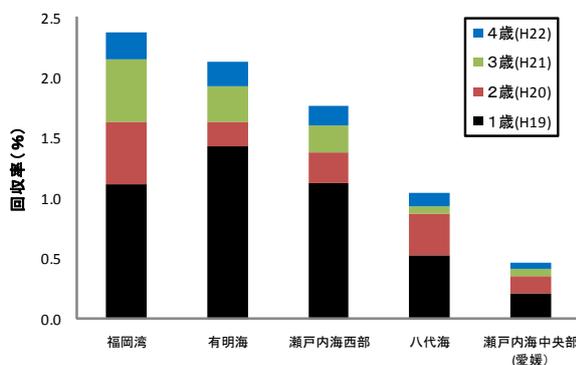
標識（左：右胸鰭切除、右：耳石染色）



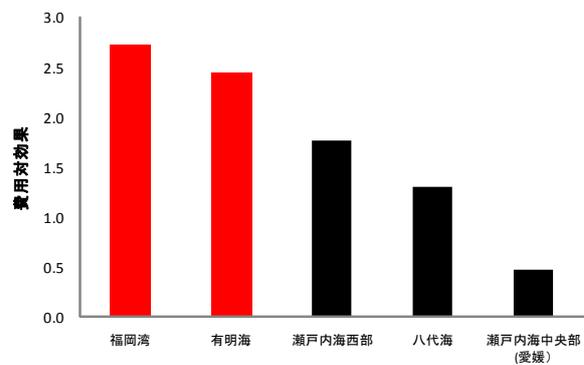
放流場所と漁場

(2) 4県の回収率

平成18年度放流群の4歳までの回収率は、高い順に福岡湾放流群2.38%、有明海放流群2.13%、瀬戸内海西部放流群1.77%、八代海放流群1.05%、瀬戸内海中央部放流群0.47%でした。瀬戸内海中央部放流群を除く4群で1以上の費用対効果が得られ、福岡湾放流群、有明海放流群では2以上の高い費用対効果が得られました。



放流場所別の回収率



放流場所別の費用対効果